



月刊 動力労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

94.6.17 No. 4010

物販県内オルグの成功勝ちとろろ!

一カ月間の物販
オルグを終わって

高石正博

私は、五月一五日から始まった物販オルグで、広島・岡山・鳥取・香川・徳島・高知・愛媛と二七日間、各県を精力的に回りました。今回、初めて約一カ月間、千葉に帰らずに各地を回ってきました。体力的には自信があつたはずですが、毎日暑い日が続いたこともあり、今回はさすがに各週の終わりに近づくにつれ元気がなくなりました。

各県では、支援と一緒に回ってくださる人達が今回の物販オルグについて、かなりハードなスケジュールを組んでくれており、一日二〇件を平均に、多いときは三〇件近くオルグするという勢いで、支援の人たちがみんな頑張っています。

四国などは、私がオルグに入る前から、支援の人たちが各労組にローラーオルグを実施しており、八〇件近くのオルグが終わっていました。

そうしたこともあって私が初めて入った職場でも、すでに取組んでくれており、その場で注文書を受け取ったり、「二三日前に注文しましたよ。」と快く受けとめてくれた新しい民間の労組もたくさん出始めています。

広島などは、結成一五周年記念の機関誌「動力千葉No.17」が飛ぶように売れ、一〇〇冊持つていった本をこのオルグの中で完売し、足りないくらいでした。

今回のオルグで実感したのは、わたしたちの闘いが少しづつですけれど、全国に広がって来たのだと思えました。

組員一人二万円目標を貫徹しよう!

岩井昇一

私は、栃木、山口、静岡、群馬、新潟とのべ二三日間、全国物販オルグに行ってきました。

今回のオルグは、大会において全国へはばたこう」との方針が決定され、年頭から春にかけて全国集会が開催されるなかでのオルグであり、受け入れの支援の方々も必死になってわれわれの方針を受けとめてくれたことよって、初めてオルグに入る労組が多くありました。

私が、今回の全国オルグを行なうて感じたことは、各労組で国鉄闘争に対する関心が非常に高かったということ、また、物販オルグを始めた当初は、動力千葉に対する「余談と偏見」をもって対応してきた労組も多少あったのですが、今回は動力千葉の話を非常によく聞いてくれる労組が多くなったことがとうとうことです。

群馬のある労組では対応してくれた役員の方が、「国労・全動労の物販は、組織として取り組んでいるが、動力千葉は別格扱いする傾向が強い。しかし、私は同じ国

鉄分割・民営化の中で解雇された仲間を区分けするのはおかしい。とにかく執行委員会において動力千葉を要請に来たこと。さらに物販を取り組むよう提起してみる。」との回答をもらい、励まされる思いです。

今回のオルグはかなりハードなものでしたが、やはり全国オルグの必要性を感じさせられたオルグでした。

東日本文春の販売拒否

昨日一六日、週刊「文春」が発売された。新聞広告には、「この号はJR東日本各駅のキヨスクでは販売しておりません。書店・その他の販売店でお求め下さい。」と書かれている。今週の「文春」のメイン記事は、「糾弾レポート『JR東日本』に巣くう妖怪」と題され、内容はJRのなかでは半ば公然のこととなっているJR東日本と東労組・松崎との癒着ぶりを批判する記事である。

側は、「報道の自由や国民の知る権利を侵害する不当な行為で極めて遺憾だ」(出版元・「文芸春秋」社長室長)、「公共性をもつJRがその内容のいかんを問わず販売拒否をすることは異様としか言いようがなく、また言論への侵害だ。」(執筆家・ノンフィクション作家の小林峻一さん)と抗議している。

JR東日本の荻野広報部長は、「事実無根の内容で、当社の名誉が傷つけられた。株主総会の混乱を意図したもので、キヨスクや弘済会とは事前に相談して今後のことを含め、文春の販売中止を決めた」とその傲慢な態度を明らかにしている。

この東日本の傲慢な対応こそ、この間、動力千葉や国労に対して行なってきた組合敵視政策と全く同じ手法である。しかも、記事の内容は前述のとおり事実である。JR東は「事実無根」などと全く言える筋合いの問題でない。われわれは、このJR東の今回の全く不当な措置を徹底糾弾する。同時にJR総連打倒に向けて新たな決意で闘いぬくものである。

貨物への格差回答弾劾!

九四夏季手当について、東日本は六月一四日、貨物は六月一五日に回答を行ってきた。その内容は以下の通りである。

東日本 基準内賃金の二・六カ月(六月三〇日以降準備出来次第)
貨物 基準内賃金の二・五カ月(六月三〇日以降準備出来次第)